

国際姉妹都市 米国スワード市

スワード市の概要

スワード市は、アラスカ州キナイ半島東岸のレザレクション湾に面したアラスカで最古の港湾都市です。1903年（明治36年）にアラスカ鉄道建設のために入植した技術者により開拓されました。

町の名前は、1867年にロシアからアラスカを買い取った、アブラハム・リンカーン大統領時代の国務長官ウィリアム・スワードにちなんで名付けられました。

スワード市は、環太平洋地域の海上貿易を支える重要な拠点となっています。また、「キナイ・フィヨルド国立公園の玄関」としてよく知られている風光明媚な都市で、人口約2,600人、面積55.8km²で、漁業と観光のまちです。

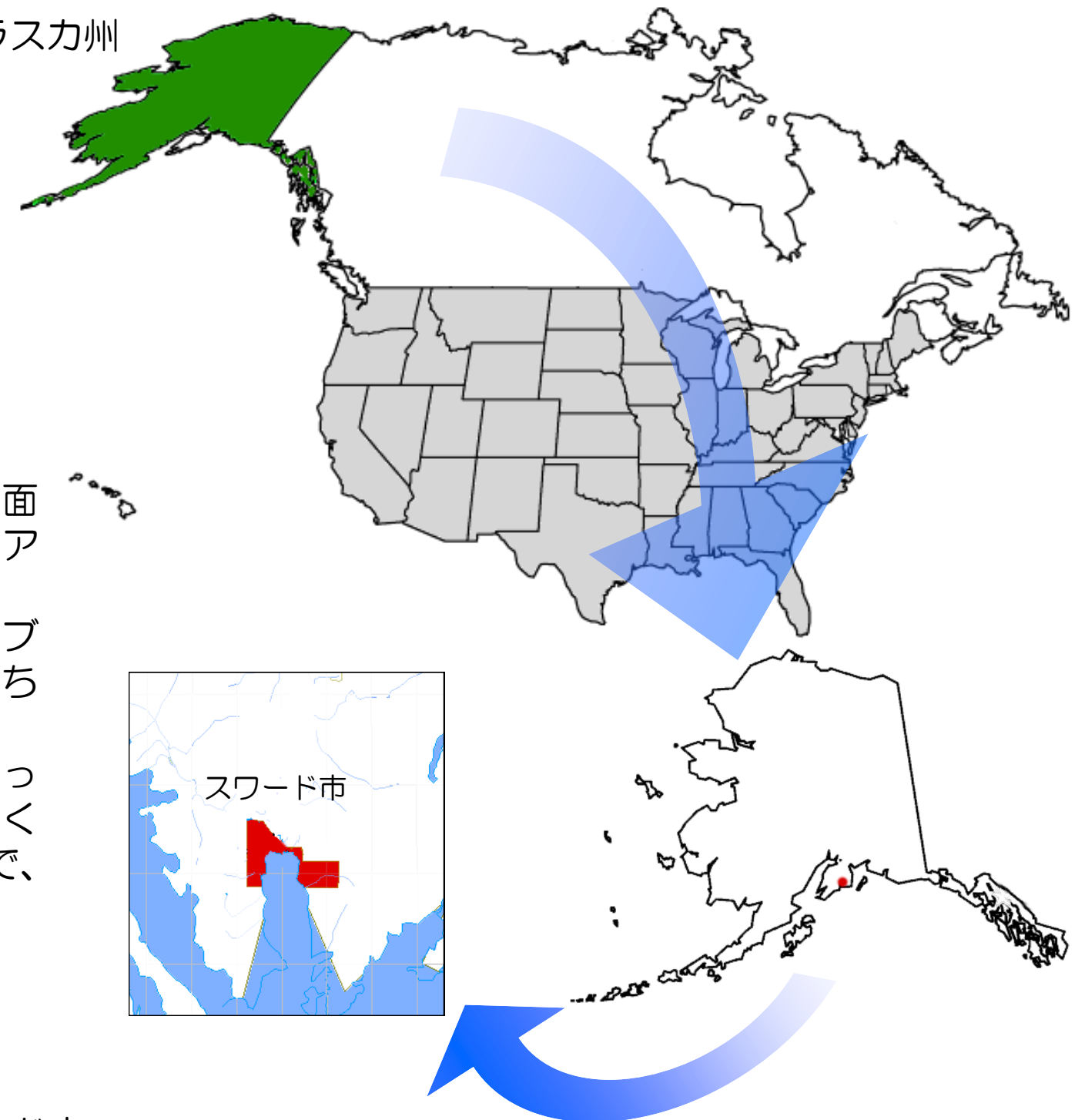
帯広市とスワード市の関係

1964年のアラスカ大地震により壊滅的な被害を受けたスワード市の復興事業のため、当時スワード市で輸入業を営んでいた日系二世の川部貞夫氏から日本企業の進出の依頼があり、大園雍彦氏（帯広市内の高校出身者）がスワード市に出張していた際、スワード市から帯広市との交流の仲介を依頼されたことに始まります。

人口規模に大きな違いがありましたが、スワード市の強い要望もあり、また同じ北方圏地域に属することから動植物に類似点があるほか、他国との交流を通して人材育成、相互理解の促進が図られるとの観点から、両市議会の議決により1968年（昭和43年）3月27日に正式に姉妹都市締結に至り、交流を深めてきました。2013年にはスワード市長をはじめ8名が来帯し、姉妹都市締結45周年を記念して帯広動物園に壁画を設置しました。2014年には帯広市から9名がスワード市を訪問し、スワード市民と壁画を制作しました。完成した壁画はスワード市内の施設に設置されています。

2023年（令和5年）に姉妹都市締結から55周年を迎え、8月には帯広市から訪問団11名をスワード市に派遣し、10月にはスワード市から訪問団13名が来帯され、交流を深めました。

アラスカ州



スワード市の風景・街並み



「キナイ・フィヨルド国立公園」では、氷河期からの太古の歴史をあらわす氷河が広がっています。

レザレクション湾に面し、自然豊かなスワード市では海や川での釣りが有名です。

釣った魚の重量を競う「シルバー・サーモン・ダービー」が毎年開催されており、地元や世界各地より釣り人が集いにぎわいます。

昭和51年より、優勝者には、帯広市国際親善交流市民の会より、会長賞（カップ）を贈呈しています。



スワード市では、毎年「マウントマラソンレース」が開催されています。

帯広市では、1975年（昭和50年）から各クラスの1位～3位までに、帯広市長賞を贈呈しています。



スワード市の風景



レザレクション湾とスワード市